

赤十字さが

さがの人たちにもっと伝えたい、
佐賀の赤十字。



コロナに負けない! 感染予防と災害救護

Atsushi Shibuya/JRCS

令和2年7月豪雨災害 ～すべては被災者のために～

- 新型コロナウイルス感染症をうつさない、うつらないための感染対策
- 献血にご協力いただける企業・団体を募集中!



公式Instagram開設!



公式Facebook更新中。

コロナに負けない!感染予防と災害救護

令和2年7月豪雨災害 ~すべては被災者の

7月3日から降り続いた大雨により、日本の各地で河川の氾濫等甚大な被害が発生しました。

日赤佐賀県支部では、日赤本社や全国支部と連携しながら、特に被害の大きかった熊本県へ医療救護班・支部支援要員の派遣を行った他、佐賀県内の市町への救援物資提供や義援金の受付など、被災者の支援活動に当たりました。

■ 全国の被害状況(令和2年8月4日時点)

- ◎死者 82人
- ◎行方不明者 4人
- ◎負傷者(重傷者含む) 26人
- ◎建物被害 8,301棟
- ◎災害救助法適用 9県98市町村(佐賀県鹿島市を含む)

■ 令和2年7月豪雨災害の特徴

1. 新型コロナウイルス感染対策

今回の災害はコロナ渦で発生したため、避難所での感染対策が大きな課題となりました。そこで各避難所では、受入人数の制限や間隔を空けての段ボールベッドの設置等が行われました。



感染予防のため間隔をあけて並ぶ段ボールベッドとパーテーション(熊本県人吉市の避難所)

2. 広範囲にわたる被害

7月3日から降り続いた雨は、土砂災害や河川の氾濫等、広範囲にわたり甚大な被害をもたらしました。

3. ボランティアの受付制限

新型コロナウイルス感染防止のため、被災地ではボランティアの受け入れについて県内からのボランティアに限定するなどの制限が設けられました。これにより、被災地では復旧作業に多くの困難が生じています。



避難所の入り口に置かれた消毒液(熊本県人吉市スポーツパレス)

■ 数字で見る日本赤十字社の活動(令和2年8月4日時点)



派遣した救護班

34班



派遣した災害医療
コーディネーターチーム

32班



活動した赤十字ボランティア
(物資搬送、ボランティアセンター運営ほか)

344人



ブルーシート配布数

381枚



毛布配布数

2,248枚



安眠セット配布数

997セット



緊急セット配布数

1,173セット



タオルケット配布数

2,401枚



医療品セット配布数

178セット

ために～

■ 日本赤十字社佐賀県支部の対応

◎ 人員派遣 (令和2年8月4日時点)

活動期間	派遣形態	派遣チーム(人数:内訳)	活動場所
7月 8日(水)～11日(土)	第1医療救護班	医師1名、看護師3名、事務職員3名	人吉市(人吉市立第一中学校、旧多良木高校)
7月15日(水)～18日(土)	支部支援要員	事務職員1名	日赤熊本県支部
7月17日(金)～20日(月)	第2医療救護班	医師2名、看護師3名、事務職員3名	人吉市(人吉市立第一中学校等)

◎ 救援物資 (令和2年8月4日時点)

内容	送達数
安眠セット	310セット
緊急セット	147セット
毛布	350枚
タオルケット	350枚
ブルーシート	60枚



熊本県支部で活動する支部支援要員
(日赤熊本県支部)



避難所で活動する日赤佐賀県支部第2医療救護班
(熊本県人吉市の避難所)

◎ 義援金受付状況 (令和2年8月4日時点)

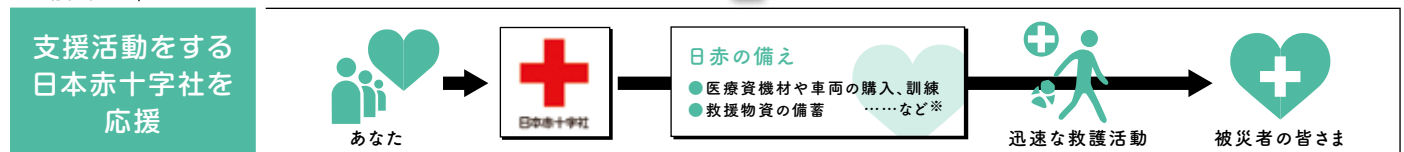
全国	2,528,739,159円(5万5,666件)	令和2年8月23日時点
佐賀県支部	9,118,568円(90件)	令和2年9月10日時点

～ あなたの思いを、被災地に。～

日本赤十字社は、皆さんの思いを、活動と義援金の2つの形で被災地にお届けします。
あなたの気持ちが、誰かを支える大きな支援につながります。

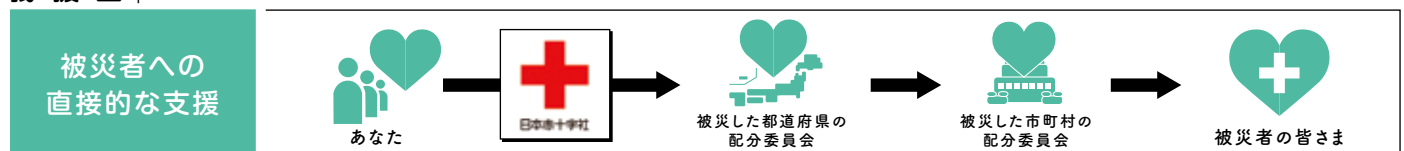
※お振込先は日赤佐賀県支部HPをご覧ください。

活動資金 | 日本赤十字社の活動を通じて被災者を支えます



※そのほか、炊き出しなどのボランティア活動の支援、青少年への防災教育、救急法や幼児安全法の講習、途上国への開発支援などに使用されます

義援金 | 全額を被災された皆さまにお届けします



新型コロナウイルス感染症を うつさない、うつらないための感染対策

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行、佐賀県内での発生もあり、先行きの見えない中で不安な気持ちを抱えている方もいらっしゃると思います。この未曾有の事態に打ち克つには地域の皆様のご協力が不可欠です。地域で新型コロナウイルス感染症を「発生させない」のではなく、発生しても「広げない」ことが重要です。

ご自身がかからない、うつさないための正しい対策を実施し、力をあわせてこの危機を乗り越えていきましょう。

1 手洗いの徹底

正しい手の洗い方

手洗いの前に

- 爪は短く切っておきましょう
- 時計や指輪は外しておきましょう

<p>1</p> <p>流水でよく手をぬらした 後、石けんをつけ、手のひら をよくこすりします。</p>	<p>2</p> <p>手の甲をのぼすようにこす ります。</p>	<p>3</p> <p>指先・爪の間を念入りにこ すりします。</p>	<p>4</p> <p>指の間を洗います。</p>	<p>5</p> <p>親指と手のひらをねじり洗 いします。</p>	<p>6</p> <p>手首も忘れずに洗います。</p>
--	---------------------------------------	---	---------------------------	--	------------------------------

2 手指消毒の徹底

正しい手指消毒の手順

<p>1</p> <p>ポンプを下まで押し切り、 消毒液の泡を手に取ります。</p>	<p>2</p> <p>両手の裏表にムラなく、 しっかりと泡をすりこみます。</p>	<p>3</p> <p>泡が消え、手が乾くまで 揉みこみます(消毒後手を洗 う必要はありません)。</p>
--	--	---

3 マスクの着用

マスクの着用

- 鼻のワイヤーを鼻に合わせる
- プリーツ(ひだ)を下にして顎の下まで伸ばす
- 上下にしっかり開いて隙間を作らない
- 鼻から顎までをしっかりと覆う
- マスクを触ったら手を洗うか、消毒しましょう

4 咳エチケットの徹底

3つの正しい咳エチケット

<p>1</p> <p>マスクを着用する。</p>	<p>2</p> <p>ティッシュ・ハンカチ などで口と鼻を覆う。</p>	<p>3</p> <p>上着の内側や袖で 口と鼻を覆う。</p>
---------------------------	---	--------------------------------------

5 3つの密を避ける

<p>1 換気の悪い 密閉空間</p>	<p>2 多数が集まる 密集場所</p>	<p>3 間近で会話や発声をする 密接場面</p>
---------------------	----------------------	---------------------------

献血にご協力いただける 企業・団体を募集しています!



献血は1人でできるボランティアですが、お一人の献血で救うことのできる患者さんの数は限られます。しかし、お一人の方が他の方にお声を掛けていただくことで何倍、何十倍もの患者さんの命を救うことができます。多くの方にご協力いただくことのできる企業・団体献血はとても大きな力になります。

献血バスを呼ぶ

献血バス1台の配車にあたりお願いすること

献血の種類	400mL献血	体重/51kg以上 年齢/男性17~69歳*、女性18~69歳* 1年間に献血できる回数/男性3回、女性2回 ※65歳以上の献血は、60~64歳に献血経験がある方に限ります。
献血希望者数	1日/60人以上 半日/30人以上	
献血バスの駐車場所	全長/12m 幅/3m 高さ/4m ※バスの進入経路についても十分な広さが必要です	
受付場所の確保	会議室、事務所 など ※献血申込書の記入、電子タブレットによる問診などを行います。	
電源	2ヶ所(家庭用コンセント)	
日程調整	およそ2カ月前まで	

実施前のPRについて

- ◎日時や場所を記入したポスター・チラシを準備いたします。掲示および広報にご活用をお願いします。
- ◎放送、朝礼、会議、メールなどでの積極的な周知にご協力をお願いします。
- ◎献血PR映像による説明や、DVD貸出もあわせてご相談ください。

献血に要する時間

- ◎バス1台で1時間に献血できる人数は10名~15名です。
- ◎献血(受付・採血・休憩)に要する時間は、1人あたり40分~50分です。
- ◎特定の時間帯に協力が集中すると、待ち時間が発生し、お1人あたりの所要時間が長くなる場合があります。タイムスケジュールを作成していただくとスムーズです。



ご不明な点や詳細についてお気軽にお問い合わせください。
|お申し込み・お問い合わせ| 佐賀県赤十字血液センター 献血推進課 0952-32-1011

5月

27(水)

すずらんの贈り物

■病棟に鉢植えとしおりの寄贈を頂きました

全日空(ANA)様より、すずらんの鉢植えとすずらんの花の香りがするしおりをいただきました。

唐津赤十字病院では毎年贈呈式を行っており、今年で62回目となります。新型コロナウイルス拡大防止のため、対面での寄贈とはなりませんでしたが、受け取った患者さんから、感謝の声が寄せられました。



すずらんの香りに癒されました。治療を頑張りたいと思います。ありがとうございます。(30代・女性)

すずらんの香りで少し元気ができました。ありがとうございます。(8歳・男性)

「しあわせ」とは、平凡に生きていられることだづく実感します。人生60年生きていますが、今、病気とともに大変な時期に直面しています。でも、まわりの人たちに助けられて元気を頂いています。明るい明日を信じてこの時期を乗り越えましょう。「再び幸せが訪れる」(60歳・女性)

こちらこそありがとうございます!!。この時期に入院すると「すずらん」がある。ちょっとした気持ちは本当に嬉しいものです。「すずらん」のしおりも4枚になりました。大事に使っています。(73歳・女性)



June

6月

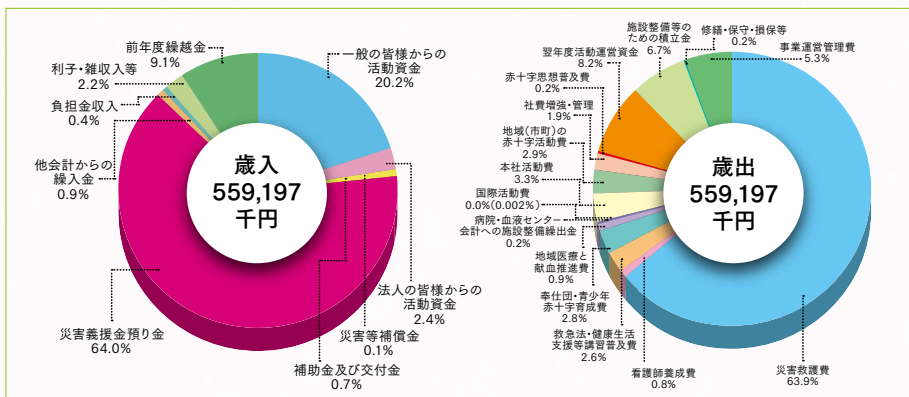
9(火)

令和2年度“第1回支部評議員会”を開催!

■令和元年度事業報告と収支決算が承認されました

評議員会は支部の最高議決機関です。支部及び唐津赤十字病院の事業報告と収支決算のほか、佐賀県赤十字血液センターの事業報告について説明がありました。

| 令和元年度決算報告《支部》※「令和元年8月豪雨災害義援金」を含みます。



唐津赤十字病院

令和元年度 医療施設特別会計決算(千円)

収入	9,616,072
支出	9,333,653
差引	282,419

6月

12(金)

災害に備えて! 支部内訓練を実施!

■県内での災害発生を想定した、災害対策本部設置訓練

佐賀県は令和元年8月に、これまでに経験したことのない豪雨災害に見舞われました。

今後こうした大規模な豪雨災害が発生する可能性もあることから、昨年の経験を今後につなげるために、支部内訓練を行いました。発災から参集・災害対策本部の立ち上げ・運営までの手順の確認を行い、訓練後の振り返りでは各職員からの意見が活発に飛び交い、有意義な訓練となりました。今後も年2回、支部内訓練を継続的に行っていきます。



7月
15(水)

医療資器材の配送を行っています！

+ July

■ 県委託事業「プロジェクトM(新型コロナに対応した医療提供体制の強化)」始動

新型コロナウイルスの感染拡大に備え、日赤佐賀県支部では県からの委託を受け、感染症指定医療機関や受入協力医療機関等に、感染防止のための医療資器材等を円滑に供給するため、資器材等の調達、保管・管理、及び配送を開始しました。

7月15日(水)に行われた第1回目の配送以降、新型コロナウイルスの対応に当たる医療機関からの注文を受け、随時物資の配送を行っています。



7月
29(水)

夏に要注意！水上安全

■ 小学校で水上安全講習を実施

千代田西部小学校の1、3、5年生を対象に、水上安全の講習を行いました。1、3年生には、溺れた時どのような行動をとったら良いのを知ってもらうために、体育館での講習を行いました。

また、5年生には着衣泳の体験をしてもらいました。日本赤十字社佐賀県支部では、人間の命と尊厳を守る活動の一環として、こうした講習を毎年行っています。



7月
30(木)

献血者の皆様に感謝！

■ 令和2年度献血功労者表彰式

長年にわたり献血運動にご協力いただいている企業・団体様を対象に献血功労者表彰式を行い、活動年数に応じて日本赤十字社金色有功章、銀色有功章、日本赤十字社佐賀県支部長感謝状を計10団体に贈らせていただきました。

受賞団体(順不同、敬称略)

- ◆ 日本赤十字社金色有功章【活動20年以上】
 - ・佐賀県農業大学校 ・西日本電気鉄工労働組合 ・基山ライオンズクラブ
- ◆ 日本赤十字社銀色有功章【活動15年以上】
 - ・株式会社佐賀銀行 ・佐賀信用金庫 ・唐津農業協同組合
- ◆ 日本赤十字社佐賀県支部長感謝状
 - 【活動10年以上】
 - ・佐賀第2合同庁舎 ・協同組合クレオパーク鍋島 ・株式会社協電カッタコア製作所
 - 【活動5年以上】
 - ・鳥栖保健福祉事務所



7月
2(木)~30(木)

佐賀商業高等学校サッカー部による献血協力

■ 「サンキュー(390)プロジェクト」

県高校総体の代替大会SSP杯で優勝した佐賀商業高校サッカー部が、大会を開催した佐賀県に恩返しをしようと部員で発案し、「サンキュー(390)プロジェクト」と題して献血に協力していただきました。

今後は同校の他の部活動や他校に活動を広げて「390人」の献血達成を目指してくれるそうです。



佐賀県赤十字 防災ボランティア

Red Cross Supporters



【防災ボランティアとして活動する鈴木さん(左から2番目)】

“出来る時に、出来ることを”

佐賀県支部には、現在12の奉仕団(ボランティアグループ)があります。平時は、それぞれの資格や特殊技能を活かして講習などの赤十字事業を推進して下さっています。そして、いざ災害時になると、支部が実施する災害救護を円滑に行うため、赤十字防災ボランティアとして活動して下さいます。

令和2年7月豪雨災害では、7月6日から県内に避難所が開設され、複数の地区から支部へ救援物資の要請がありました。支部は協力していただける赤十字防災ボランティアを募集。来ていただいた5名のボランティアさんと救援物資の積込、配送を行いました。

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、活動の範囲は限られていましたが、支部の災害救護活動を支えて下さいました。

今回活動していただいた一人、鈴木容子さんは、看護奉仕団員、幼児安全法奉仕団員として活動を行いながら、毎月1回、防災について学ぶ防災ボランティア勉強会や、実災害を想定した防災ボランティアセンターの設置訓練に参加。災害時には積極的に活動を行って頂いています。

「災害時に少しでも役に立つことが出来ればと思い、活動に参加しています。支部の12奉仕団に所属する幅広い年齢層のボランティアの方々と一緒に、仲良く、元気に活動できることも楽しみです。」

赤十字の活動は平時も災害時も多くのボランティアの方に支えられています。ボランティア活動に興味のある方は、ぜひ支部までお問い合わせください。



物資配送の様子



佐賀県支部

〒840-0843 佐賀市川原町2番45号
TEL.0952-25-3108

唐津赤十字病院

〒847-8588 唐津市和多田2430番
TEL.0955-72-5111

佐賀県赤十字血液センター

〒849-0925 佐賀市八丁畷町10-20
TEL.0952-32-1011



ご愛読
ありがとうございます。